

社会人のための情報システム誌
— 経営近代化のシステム研究 —

Computer Report

11

2015 No.734

3 はじめの言葉

4 歴史事実は偽れない

何度言ってもウソはウソ

田原文夫

国民の「ものを言う権利」を制約している国ほど、言いたい放題のようだ。習近平中国
国家主席の国連での演説である。歴史事実は偽れないと言いながら、自身の発言内容は歴史
事実捏造のオンパレードだった。世界中が、これを見ていた。中国国民は近い将来、大
きな代償を払うこととなるだろう。

10 情報社会を考える その62

情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

チャイナリスク

7兆円にも上るアメリカに対するパラマキ購入を手土産に行われた習近平中国国家主席
のアメリカ訪問旅行だった。オバマ大統領との交渉段階では、サイバー攻撃に対する相互
監視を申し合わせで合意したものの、相変わらず治まる気配はない。むしろ、より活発に
なっている気配である。中国による南沙諸島での覇権主義の展開も、習近平の演説とはま
ったくの裏腹で世界を欺くものとなっている。目的は中国国内向けであるには違いないが、
世界相手には通用しない。まったくのお粗末としか言いようのない展開である。しかしこ
れには、アメリカが容赦なく動いた。不当な埋め立て工事と飛行場建設を進める現場周辺
海域において、アメリカはついにイージス艦の展開を開始したのだ。この作戦には、南沙
諸島周辺のほとんどの国々が支持をするものと考えていいだろう。それほどに、中国の覇
権主義の展開が露骨すぎるのだ。またこれをいつまでも、世界が看過するわけがない。

12 オープンガバメント OG 23

情報社会をすすめる

その57

水田 浩

1990年代に紙によるワークフローをデジタルにして、メインフレームと端末を使って
事務系、技術系で個別に行われるようになり、1995年代にはインターネットが世界中で
使えるようになってきた。そして、個別に開発されたシステムをより早く、より安く、よ
り良くつかうために製品やシステムのライフサイクル全体の統合化を模索するようにな
っていた。そして、産業別、国別のシステムとデータを世界共通にしてより生産性の高い
ビジネスをするために、世界共通の情報基盤を作らなければならないという認識が世界中
で起こっていた。そこで、CALSの一つの製品、システム、サービスを全ライフサイクル
で、「情報は一度つくって、幾度も使う」という運動は世界規模で受け入れられた。一つ
の CALS という概念(言葉)で1995年から2005年に掛けて世界中が一つになって運動
を起こすようになった。

18 連載 アーキテクチャ論 (55)

ビジネスアーキテクチャモデリング手法の比較

山本修一郎

国立大学法人 名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授

今回は、ArchiMate によるビジネスモデルの表現方法について説明する。ビジネスプロセスについては ArchiMate で容易に表現できる。ビジネスモデルではビジネスプロセスだけではなくビジネス価値も表現する必要がある。ところが、ArchiMate の書籍ではビジネス価値についての記述が少ないため、ArchiMate でビジネスモデルをどのように表現すればいいか明確ではないという問題があった。以下では、まず、ArchiMate によるビジネス価値の表現手法について概説する。次いで、ビジネスモデルを ArchiMate で記述する方法を紹介しよう。さらに、BMC(Business Model Canvas)と ArchiMate の比較についても紹介する。

26 連載 日本再生と人材育成

人口減少／少子高齢化時代への挑戦 その10 Dr.ベスト

【緊急特別編 その3】「日本国憲法」に今一度立ち返ってみよう

今年には第二次世界大戦(太平洋戦争)の終戦から70年に当たる節目の年である。赤紙一枚で戦場に派遣され命を落とした軍人は約200万人、一般の人は約100万人、合わせて約300万人もの人が犠牲になっている(当時の人口の約3%)。その戦争の影響は、中国やアジアを中心として、この戦禍で犠牲になった方々は2000万人以上とも言われている。欧米などを含む第二次世界大戦全体の犠牲者の総計は5000万~8000万人とされる(8500万人とする統計もある)。当時の世界の人口の2.5%以上が被害者となった(含む[飢饉](#)や[病気による死者](#))。人口減少/少子高齢化時代の今日において、貴重な人材(特に若い世代)が二度と70年以前に経験したような悲惨で無意味な戦争の惨禍に巻き込まれることのないようにしなければならない。

33 IT新時代とパラダイム・シフト

第72回 IT立国にみる後進国の先進性

根本忠明

21世紀に入り、IT立国やIT先進国と呼ばれ脚光を浴びる国々が次々に登場してきている。これらの国々は、発展途上国や新興国であったり、先進国に位置する小国であったりする。これまで繰り返しIT先進国を目指すと宣言してきた日本にとって、これらの国の政策や改革は、学ぶべき点が少なく無い。今回は、これらの国の中から、東欧のエストニア、アフリカのルワンダとケニアの3ヶ国について、紹介することにしたい。

36 続インテリジェンスへのいざない 70

建設業界お粗末の段

コンピュータ神話の悪用?

今井 武

ジャパニーズクオリティと言え、世界に冠たるもの、と信じてきた我々日本人にとって、現存しているマンションが傾いたという事件は衝撃だった。しかもその現場には、日本を代表する大企業が勢揃いしているのだから、なおさらである。迷える日本品質、どこへ行く。

39 連載 四字熟語カトレーニング

すぎやまちヒロ

セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで
株式会社 日本経営科学研究所
ComputerReport編集部

cr-info@jmsi.co.jp

CR 選書のご案内

CR選書

改訂版
データ・ウェアハウス

定価 本体 2,816円+税 送料(〒300) A5版 289頁

石井 義興 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 目録が必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータ・ウェアハウスのサポート
第二章 データベースとデータ・ウェアハウスの相違点	第八章 データ・ウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータ・ウェアハウス	第九章 データ・ウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネステッド・リレーショナル・モデル	第十章 データ・ウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正規化の問題点とデータ・ウェアハウス	
第六章 データ・ウェアハウス管理システム	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

実践データ・ウェアハウス OLAP

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 これまでのEUCIでできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構築
第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

消費者行動論

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 181頁

田原文夫 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動トピックス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動トピックス)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

aism 研究活動報告
インターネットセキュリティの落とし穴

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修
aism情報セキュリティ・マシントリプル研究会 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM、KLEZの監視と駆除記
第二章 aism情報セキュリティマシントリプル研究会の発足	第十二章 メールが通らない
第三章 認知される電子署名方式の基本原則	第十三章 生体ネット運用のための情報オーナーの建設
第四章 世界を駆けめぐったCodeRedワーム	第十四章 最近のインターネット防衛戦線心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク)	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2014年度の事業計画	第十八章 セキュリティポリシー作成にあたってのノウハウ
第九章 情報セキュリティ情報研究会の発足と課題	
第十章 インターネット関連の苦情と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

エンタープライズ情報システム設計の基本書！
トップ主導の情報システム革新

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 271頁

高田 顯重 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

計量モデルの構造と解法
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 213頁

安田 聖 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分解方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方型式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計量方法	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

『いざ！というときの得広報』
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,748円+税 送料(〒300) A5版 228頁

加藤 洋一 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 売定文化企業体質
■ ニュースリリースは東方向運賃	■ 守るも攻めるも広報が窓口
■ 活字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック	<付> 記事とうまく付き合うための鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

ザ・ワールドリンク
がんばれ、国際グローバルサーバー—
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,848円+税 送料(〒300) A5版 268頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 発端	第十一章 日本開港法の違い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米軍チーム乗組の危機
第三章 新しいシステムへの働き	第十三章 新たな仲間
第四章 WOOIに向けて	第十四章 米軍乗組所帯と新たな組み
第五章 FJO、IBM戦争	第十五章 開港場建設とバレンタイン
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本番乗組員
第八章 米軍チーム立ち上りの流れ	第十八章 既存システムとのデータ交換の問題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 乗組員の一日、訓練、最後の苦しみ
第十章 米軍チーム、異なる三人組	第二十章 乗組員の二 安室乗組と北米センター乗組

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp